

実子誘拐・共同親権に関する公正報道を求める共同声明

2022年2月21日、警察庁は各都道府県警宛に「配偶者間における子の養育等を巡る事案に対する適切な対応について」という文書を出しました。

親による子どもの誘拐について、場合によっては刑事罰の対象になることを示した判例とともに、同居時からの連れ去り、及び別居親による連れ戻しについて、被害の届出について適切に対処するよう求める内容です。

日本以外の諸外国では、“child abduction” 実子誘拐として処罰の対象になる行為が、日本では放置されてきました。

この現状の中で、先の警察庁通知の持つ意味は大きく、内容の是非の議論はあるにしても、夫婦間の関係が悪化した場合において、どのような対処が法的に規制されるのかについての規範の変更ともなりうるものです。

しかしながら、国民生活において大きな影響を与えるこの通知について、一部のネットメディアを除いて、その存在を公にして報じた新聞社、放送局は現在まで見当たりません。

過去、実子誘拐や共同親権についての記事が掲載され、番組が放送されると、大量の苦情がメディア企業に寄せられ、その中でネット上の記事が削除されることも見られました。問題となる記事や番組は、男性が加害者、女性が被害者という従来 of 報道姿勢に挑戦するものです。

また先の通知に関して報じたネット記事が掲載されると（「AERA」朝日新聞発行）、修正されたことが記事中に明示されました。この記事に関して、詳細な正誤表が SNS 上に出回り、記事を残すために言い回しまで付度する編集サイドの姿勢がうかがい知れます。

これからの社会で、どのような制度や社会認識が作られていくのか、受け手が判断できるよう賛否両論についてメリット、デメリットを適切に報じ、さらにそこで出された論点の妥当性について評価しながら議論に資するのが、報道機関としての役割です。

にもかかわらず、ことこの問題については、苦情が来そうなので触れない、というイージーな判断を報道の公共性に優先する大手メディアの姿勢は明らかです。

このような姿勢が変わらなければ、公正な報道を続けようと奮闘するネットメディアの記事も孤立します。もはや報道機関全体が信用を失墜し、その役割を果たせなくなるのではないかと私たちは危惧しています。

社会にタブーを広げているのは、口封じのためにあなた方の会社に苦情を入れる人たちであり、同時に、マスメディアで働くあなたたち自身です。双方の主張の違いを人権侵害行為を報じない免罪符にしてはなりません。

私たちは新聞社や放送局が、男性を加害者としてのみ扱う報道姿勢を改め、実子誘拐や共同親権についての報道について、もっと積極的に取り上げることを求めます。

それは伝えるべきことを伝えるという本来報道に求められる役割にほかなりません。

【賛同者 156 個人・団体】浅井果林・秋野隆博・新しい親子交流 Promotion Organization・浅井英之・天辰康介(会社員)・雨谷康弘(一般財団法人国際福祉人権研究財団副理事長)・安藤信明・飯野昇・生井栄治(自営業)・石井発雄(会社役員)・石井政之(ノンフィクション作家)・今井美奈(会社員)・織岡謙太郎・猪爪直樹(会社員)・稲坂将成(弁護士)・稲坂将成法律事務所・井上森(自立障害者介助者)・齋部サルマン公司・上田ハル子・宇山祐明・江邑幸一(地方公務員)・おおしか家族相談・大鹿の十年先を変える会・大隈新吾(会社員・人材コンサルタント)・大橋達矢(会社員)・奥原聡志(会社員)・尾崎全紀・尾崎保・長田政江・越智康二・小野寺淳・小畑徹宗・小畑ちさほ(フレンズ英語主宰)・親子交流促進協会・親子ネット NAGANO・笠牟田卓也(子供の父親)・門屋太郎(会社員)・角谷知泰(理事長)・カトリック高円寺教会・正義と平和協議会・勝又美保(スクールカウンセラー)・金丸賢司・金丸宗・北埜弘也(一般人)・岸本佑(会社員)・北條康雄(公務員)・北野寛三・木村尚平(医師)・共同親権運動・国家賠償請求訴訟を進める会・楠木奈奈・工藤裕加(パートタイマー)・来栖香(NPO 法人パノラマ)・黒木一也・桑添泰嘉・古賀礼子(弁護士)・後藤堅治・後藤友基(息子2人を連れ去られた年下パパ)・後藤八重子(主婦)・小島太郎(合同会社小島事務所代表)・子育て改革のための共同親権プロジェクト・子どもに会いたい親の会・子どもの権利条約親子国賠・桜井裕也(会社員)・貞村英彰(行政書士)・佐々木真一・笹野将志・佐藤亘(会社員)・佐野浩史(子どもに会いたい親の会代表)・沢田建(会社員)・篠原昌史(子供に会いたい会社員)・島田英雄(会社員)・渋谷知樹(医療従事者)・新毅夫(会社員)・白井勇・鈴木愛美(連れ去られ経験者)・菅原正義(会社員)・杉藤孝・鈴木幸雄(会社員)・角拓夢(会社員)・関根康記(会社員)・添田岳秀(そえだデンタルクリニック 医院長)・高井学・高梨信也・高梨聖也(鎌倉 FM 放送局 82.8 番組パーソナリティー、犬訓練士)・高梨信子(主婦)・高橋喜寿・高橋雪・竹内英治(税理士)・竹田俊彦(システムエンジニア)・武美如(会社員)・田島秀人(会社員)・田中俊英(一般社団法人 office ドーナツトーク代表理事)・頼母木浩貴・辻智博・堤則昭(親子ネット NAGANO)・寺嶋幸子(主婦)・得永健・得永宣子(薬剤師)・豊福京子・豊福直(会社員)・豊福政之・中易まりの・中易道子・中易みのり・長島大介(会社員)・中島祐二(会社員)・中野淳介・奈佐誠司(一般財団法人国際福祉人権研究財団理事長)・難波広・難波宏隆(会社経営)・西牟田靖(ノンフィクション作家)・二宮潤一・二分野知恵(主婦・パート)・野村正人・Bae Sung June (Mr.)・袴田達也(自営業)・長谷川一郎(自営業)・原田政彦(会社員)・東出まつり・樋口英明(会社員)・広野樹(別居親)・深澤隆浩(34歳男性)・フクタイサオ(自営業)・福田智行(自営業)・藤野悠樹(会社員)・藤原達也(会社員)・藤本由利子・船戸愛(フリーランスコピーライター)・堀内恵理子(会社員)・牧野佐千子(ジャーナリスト)・松岡弘樹(実子誘拐被害者)・松下時生(会社員)・松村直人(ITフリーランス)・松本直之・萬代光晴(会社員)・三浦のぞみ・三浦宏紀・三浦萌・水谷元紀・水留勝弥(会社員)・密照樹(看護師・4人の父)・水野珠美(会社員)・水野法志(会社員)・宗像充(ライター)・モモカ行政書士事務所・百田系一(株式会社 C.D.UNITED 会長)・森口収規・森山政臣・柳澤淳・山岡達也・山本親広(介護施設経営)・山本直幸・横島秀昭(会社員)・吉賀哲郎(医師)・庄原赤十字病院皮膚科部長)・吉田茂(保育士)・吉田常孝(精神科医師)・吉田文典・和田哲也(会社役員)

【賛同者のメッセージ (一部抜粋)】

・2021年に娘を相手方一家に連れ去られ4ヶ月会えてません。同じように苦しんでいる人が声を上げることに賛同です。

・子どもと引き離された父親です。私には有責事項は一切ありません。しかし現在、共同親権を求めた発信をすると、一部の方達の偏見や差別、一部事実と異なる報道に心苦しい思いをしております。私の事情を知る友人や親族もこの状況に疑問を感じております。どうか、公正な報道をメディアにはお願いしたいと思います。

・親子断絶に苦しむ父親です。一日も早い共同親権導入を！

・マスコミが報道しないことはおかしいことに賛同します。

・0歳の子を夫に連れ去られた母親です。監護者指定・子の引き渡しでは継続性の原則で不利な状況でした。弁護士を通さない夫への働きかけで和解となり子が戻ってきました。夫には父親として子に愛情を注いでほしいと思っていますが、実子誘拐がまかり通る現状では、また連れ去られてしまえば、今度こそ本当に母子断絶されてしまいます。その恐怖から、夫と子の面会交流を頻繁に実施することができていません。子の健全な成長のためにも、両親が関わりあえるような社会を望みます。

・私自身、つい先月妻に愛すべき息子を連れ去られ、日々地獄の様な毎日を送っております。不貞行為をはたらいた妻が、その事実を突き付けると息子を連れ去りその後弁護士同士でのやり取りが始まっております。当事者となり初めて日本の法の異常さや、同じ様な被害者の方が多くおられる事を知りました。連れ去りは許容され、連れ戻しは誘拐扱いで捕まるという理不尽さや、母親というだけで、事の経緯や中身を見ずに無条件で有利であること、何よりも実施誘拐が黙認され、それをビジネス化している弁護士も多数存在すること、父親として親権

があるにも関わらず不当に子どもと引き離され、毎日筆舌に尽くし難い苦しみに襲われております。この「連れ去り勝ち」という歪んだ社会の是正、連れ去られ被害者達に対する公平な法制度と現場運用、そして同様の被害者が今後出ないようにする為にも、皆様の活動に強く賛同させていただきます。

- ・ Blog の記事読ませて頂き賛同いたします。私も被害者です。
 - ・ 多くのメディアの方々とお会いしてきましたが報道され難い問題である事を常々感じております。
 - ・ 不倫妻に連れ去られ、裁判所に虚偽 DV を認定され、もう何年も子供たちに会えていません。
 - ・ 単独親権のために、孫となかなか会えない祖母の立場で、応援してきました。こここのところ、体調が悪く皆さんとの歩調が遅れがちで申し訳なく思っています。賛同いたします。
 - ・ 応援しています。大変ですが頑張ってください。
 - ・ 共同親権に賛同します。また、各種メディアの公正な報道を強く求めます。
 - ・ 頑張ってください。私も、連れ去られている状況で苦しんでいます。応援します。
 - ・ 自分の場合は、実子誘拐の被害者ではなく、単独親権放置により、実子と会えなくなった、国が子供の福祉を無視し続けた被害者です(最大の被害者は子供ですが)。子供の福祉無視、という問題の本質は同じだと考えますので、賛同します。
 - ・ 親戚も現在子供を連れ去られ、会う事もどこにいるのかもわからない状況です。私の署名が少しでも皆様の力になれば幸いです。
 - ・ 口封じなどせず、世に知らしめて頂きたいです。離婚後単独親権しかない国は、北朝鮮と日本、南アフリカの国程度、ありえないです。実子誘拐とかもすぐ消していただきたい犯罪です。
 - ・ 家裁で共同監護養育調停を申し立て、現在、3年ほど協議中です。賛同します。もっと共同親権について新聞やテレビで報道して頂きたいです。
 - ・ 社会正義が実現されることを切に願っております。
- 祖父母の立場での賛同です。

・ 毎日保育園へ送り迎えしていた孫に突然会えなくなり、息子が何をどうしても子どもを勝手に連れ去った側が親権を得るということ、84年生きてきて初めて知りました。息子には毎年十万人以上も同じ立場の人が生まれていると聞き、なぜ報道機関がこのことを報道しないのかが不思議でなりません。

・ 私も当事者(非親権者)です。我が子に思うように会えず、疲労困憊の日々を送っています。全ての人には親が2人います。片親親権制度では救済し得ないこの国の実態を、泣いている別居親や子供たちの苦悩を、見て見ぬ振りせず日本中に発信して欲しいです。

・ 日本でフランス人夫と結婚しました。夫が結婚中子供達をフランスに連れ去り、のちに離婚を求められました。家を売り、全ての財産をもっていかれた後でした。日本で離婚し、親権を渡すと子供達に会わすことが出来ると脅され、数ヶ月会ってなかった私は早く会いたい気持ちでパニックになり親権を渡しました。その後フランスに旅立ち、子供達の近くで生活しております。一緒に住んでないので請求され、養育費を払っています。共同親権の国フランスなのに、日本の単独親権を法的にフランスで利用し、私が子供達の学校に入れなくしたり、私の滞在許可証取らせないようにしたり、親権があるという理由で子供達の財産は自分が管理しないという理由で私が貯めた子供達の貯金全額下ろして、そのお金は使われてしまいました。子供達の郵便局も、子供達の持ち物も自分の管理のもとにあると。単独親権を悪用し、支配されているままです。協力できる事あればと思います。

・ 私はもうすぐ、離婚が成立します。私は2年間、子供の為に元に戻って一緒に生活してあげるために頑張ってきましたが、相手から調停を起こされ、子供の気持ちを考え、親権と監護権の分離も求めましたが、全て駄目で親権を奪われてしまいました。ずっと子供も元に戻ってほしいと望んでいたのですが、残念で悔しくてなりません。この日本の片親親権制度は私はありえないと考えております。私は諦めません。私の弁護士さんも、共同親権が決まれば協力してくれると言ってくれました。親の都合で、別れて子供を苦しめてしまったことに悔やんでなりません、私は子供の為に共同親権で戦います！

・ 賛同します。毎年約20万人もの子ども達が片親に会えなくなるか自由に会えなくなっているこの国の現状を、報道機関は報道する義務があると思います。

・ 子を連れ去りした妻はDVシェルターを拔出してまで、自分とやり直したいとの事を申ししており離婚強制、弁護士の解任ができないDVシェルターの誓約書などが大きな問題ではあります。単独親権での問題でもあり、単独親権を行政や弁護士がDVシェルターや被害者支援センターなどの組織存続の為に利用し予算確保による金儲けの為にDV等をでっち上げし子の連れ去りを行われています。必要であれば報道の際に、DVシェルターを拔出した妻のメールを証拠として提供します。離婚が強制され、誓約により身動きが取れない、弁護士がキャンセルできない等の記載があります。妻からはDVシェルター入居時に身につけている物を施設の方に渡したが、DVシェルターを出る時には結婚指輪が無くなっていたとの証言を聞いています。妻の友人とその両親も証人としています。報道で何かご協力出来る事があればご連絡下さい。